



こくろうよなご

第20号

2025年6月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

パワハラ報道にドキッ！

心理的に安全な職場ですか？

「JR西でパワハラ役員処分」との新聞の大見出しにドキッとした人も多くおられてのではないのでしょうか。その内容は、「23年1月に発生した大雪による列車が長時間立ち往生した輸送障害の検証会議にて、当時の役員による社員へのパワハラを認定し、処分した」ということでした。

第3者評価報告書より

これは、福知山線脱線事故後、ご遺族とJR西日本会社が事故原因を共同で検証する為に立ち上げた会議の提言により設置された「安全管理体制 第三者評価報告書」から明らかとなりました。

少し長くなりますが、評価報告書で指摘をされた内容を紹介すると次のようになります。

「組織の心理的安全性に関する懸念の声を確認した」として、「心理的安全性が低下した状態でのコミュニケーションは、伝えたいメッセージが受信側に正しく伝わらないリスクや、下位者から上位者にモノが言えなくなるリスク、上位者に配慮して課題が隠されるリスク、上位者から指示されたことしか対処しなくなるリスクが顕在化する可能性がある」

上司は傾聴の姿勢で！

また、2021年3月策定の「将来にわたる鉄道の安全の実現に向けて」の「視点3 安全確保に向けた連携」では、「上司は傾聴の姿勢を持ち、部下は安全のための意見や改善策を積極的に提言するなど立場や役割、組織の壁をこえて活発なコミュニケーションを図っていきます」と定めています。

福知山線事故以降、企業体質の転換目指して、様々な安全対策・安全施策が講じられて

きていますが、事故から20年経過し、経営陣が次々に交代する中、「安全への向け合い方が後ろ向き」との指摘もあります。

皆さんが日々働く職場は、「心理的に安全」だといえますか。「自由闊達に議論が出来た」り、「風通しの良い環境といえますか」、この機会にしっかりと振り返りましょう。

お出かけしたい街へ

並行路線の見直しを

6月13日、この4月の市議会選挙で6期目の当選を果たされた津守議員にも同席頂き、松江市役所交通政策課の担当者と一緒に「松江市における交通政策の現状や課題」などについて、意見交換を行って頂きました。

はじめに今年の3月に松江市が作成された「目指すべき公共交通の姿」について説明を頂きました。

ご多分に漏れず、松江市においても公共交通を取り巻く状況は非常に厳しく、その中で「利用促進市民会議」を立ち上げ、JRも加

若返ったような気分で！！

第18回全国組織強化・拡大経験交流集会は、6月1、2日にかけて神奈川県藤沢市片瀬海岸のKKR江ノ島ニュー向洋で開催されました。参加人数は本部・青年部・女性部の役員を含めて44名でした。

交流集会1日目は、海渡双葉弁護士より「今後の労働運動の課題とハラスメント問題について」の講演があり、その後「組織部」

り、その後「組織部」「教宣」「総務・財政」「業務・調査」「企画」など、組合運営に関する学習を行いました。会議終了後は、夕食を兼ねて全体懇親会がありました。JR採用組合員多く、自分も若返ったような気持ちになりました。

2日目には、組織拡大が続いている近畿地方をはじめ、いくつかの地方本部から取り組

みの報告や加入一年未満の仲間から自己紹介など挨拶を受けて頂きました。米子地本からも、この一年間の取り組みなど報告してきました。

また、「福知山線事故現場視察」「沖縄平和行進」「被爆80年視察学習会」に参加した若手組合員の感想に続き、女性部長・青年部長からの決意表明が行われてきました。

厳しい財政の折ではありますが、来年以降もあれば皆さん参加をお願いします。（吾郷）

とが大きな課題となつていとも言われていました。AIを活用したデマンドバスの運行もされていますが、タクシー事業者との調整の難しについても率直にお話を頂きました。

また、公共交通の整備はあくまで手段であつて、目的は「暮らしやすくお出かけしたくなるまちづくり」だという事を忘れないように、とも言われていました。

骨格とつめの自覚！

まちづくりの観点から、路線の再編を考えられていて、その時に「市内及び都市間輸送の「骨格」を担うのが、JRであり一畑電鉄などの鉄道である」と言われています。そして、



松江市との意見交換

JR路線に求められる「サービス水準」については、「極力維持」と記載がありました。維持ではなく「極力」が付いているところが妙に引っかかるところではありました。

公共交通の「骨格」との位置づけが期待されていることの自覚をもってもらって、現状以上の利便性を実現してほしいものです。